

# 地域医療学講座

## 年報

— 第 5 号 —

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

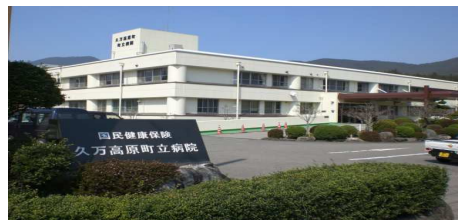
〒791-0295 愛媛県東温市志津川

(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5132

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



西予市立野村病院



久万高原町立病院

西予市立野村病院

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938

久万高原町立病院

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

## 目 次

- 地域医療への思い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 「地域医療学講座年報」に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動・・・・・・・・・・ 3
- 地域医療学講座助教に就任して・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 家庭医療後期研修に際して・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 学外講師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 教育関連活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 第3回中四国地域医療フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 第13回愛媛プライマリ・ケア研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 地域医療学専門研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 2013年度講義日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 基礎配属学生研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 地域医療実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
- マスコミ取材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

## 地域医療への思い

地域医療学講座 教授 川本 龍一

皆様のご支援を頂き地域医療学講座も設立から6年半が経ちました。講座としての方針・運営方法などを阿部雅則准教授の後を受け就任された熊木天児先生と模索しながら、本年もこれまでと同様にサテライトセンター設置自治体・職員、地域住民の皆様のご協力を頂き、様々な取り組みを進めることが出来ました。この場をかりてお礼申し上げます。また、本年末まで助教として活動いただきました楠木 智先生には、現地での学生教育に多大なご尽力を賜りましたこと厚くお礼申しあげます。新たに就任された二宮大輔先生は私の同窓生でもあり、学生時代から研修医時代、さらにはその後においても一緒に仕事をした気心の知れた先生です。助教として就任いただき心強い限りです。平成25年度からはサテライトセンターのある西予市立野村病院ならびに久万高原町立病院の両病院において講座が担当している家庭医療の専門研修を受ける先生も活躍されており、講座の活動も少しずつ実を結びつつあります。

さて、私は野村病院での勤務が通算24年になります。当初これほど長く勤めることになろうとは思っていませんでした。初期研修明けの新人の頃、くねくねと川沿いの道を遡ってやっとどり着いた360度山に囲まれた長閑な町に、とんでもない田舎に来たと実感したものです。でも、まだ駆け出しの私をこの地の病院スタッフや患者さんは暖かく育ててくれました。へき地に来る医師に対して、職員や住民の態度から感じることは「こんな所にしか来られない先生」と「こんな所に来てくれる先生」という二つの思いです。野村町の人たちからは後者の印象を多く受け、未熟な私に期待し信頼してくれました。中には身内や親友のように何でも話せて私を思い遣ってくれる人たちもでき、彼らの期待に応えるべく立派な臨床医になりたいと思いました。その後、へき地診療所を経て後期研修を終える時、当時の理事者に声を掛けていただき、温かい環境を思い出し、再び戻る気になったのです。

大学卒業の際に恩師に「偉い医師ではなく、立派な医師になるように」と言われました。医師になるということは医学部を卒業して国家試験に合格すれば終わりというのではなく、その後も様々な人たちの温かい指導を受けながら常に成長していくことが必要です。自分が多くの人たちから無償の指導を受けてきたように、私も多くの若い医師に自分の持てる知識や技術を少しでも多く伝えたいと思っています。大学の教室やサテライトセンターにも学生や研修医がたくさん訪れます。描く将来は様々ですが、彼らには患者としっかり向き合い、信頼され、それに応える喜びを味わって欲しいと思います。

「医療の谷間に火を灯す」というのが、私の卒業した大学の大きな目標でもあります。それに味を占めれば、じっくりと患者に向き合えるへき地医療の良さも伝わると思うのです。これからの私の仕事は、後継者を育成することと思う今日この頃です。

これからも教育・診療・研究と様々な事業で皆様からのご支援をお願いすると存じますが、何卒宜しく願い申し上げます。

## 「地域医療学講座」年報に寄せて

愛媛県保健福祉部長 兵頭 昭洋

平成 20 年度に地域医療学講座が設置され、本講座が順調に運営いただいておりますことに対しまして、関係者皆様には心から感謝申し上げます。

さて、「平成 24 年医師・歯科医師・薬剤師調査」をもとに本県の医師の状況を見ますと、人口 10 万対の医療施設従事医師数を圏域別では、松山圏域が 310.0 人と全国平均の 226.5 人を大きく上回る一方で、その他の圏域は全て全国平均を下回っております。

また、本県の医療施設従事医師の平均年齢は、50.8 歳で全国平均 48.9 歳を上回り、全国で 10 番目に平均年齢が高い県となっております。

このように、医師の地域間偏在と高年齢化が顕在化する中で、誰もが安心して良質な医療を受けられる体制づくりを進めるためには、地域の医療機関における若い医師の活躍が大きな課題であり、学生の知識と技量の向上とともに、学生に実習等を通じて地域医療への理解を深めていただき、将来の地域医療を担う医師として定着していただくことが、ますます重要となつてきていると認識しております。

県におきましても、地域医療支援センターとともに、本講座を医師の養成の柱に据え、学生や地域医療に従事する若手医師の育成環境整備に積極的に取り組んでいるところです。

特に、大学医学部の入試制度と連携して奨学金制度を設けた地域枠の学生については、平成 26 年度には 1 期生が 6 年生となり、卒後研修等を目前に控えるまでとなっております。本講座の長年の取組みが実を結び、学生が地域医療の現場を舞台に生きいきと活躍されることを願っております。

本講座は愛媛大学の御理解のもと、引き続き平成 29 年度まで設置いただくこととなり、講座関係者の皆様の御尽力と、愛媛大学医学部やサテライトセンター設置に御協力いただいている西予市及び久万高原町、運営経費の一部を御寄附いただいている財団法人愛媛県市町振興協会の皆様のお力添えに感謝申し上げますとともに、学生に対する地域医療教育を担う本講座の継続的な取組みに、県のみならず県内市町も大いに期待しております。

最後になりましたが、本講座の発展と、関係者の皆様が、今後ますます御健勝で地域医療の発展に御尽力いただけますことを心から祈念申し上げます。

## 久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動

地域医療学講座 准教授 熊木 天児

平成 25 年 9 月より、阿部雅則の後任として熊木天児が着任しております。引き続き、診療支援しながら地域医療における教育に力を注いでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、久万高原町サテライトセンターでの活動も 5 年目が終了しました。例年と同様に病院の敷地内で宿泊しながらの実習を行っています。昨年 4 月には地域医療学講座の設置が 5 年間継続となり、サテライトセンターでの活動により地域医療教育の一旦を今後とも担っていくことになっております。これも久万高原町および久万高原町立病院のスタッフの御尽力のおかげであり、大変感謝しております。赴任してから半年が経過しましたが、ここでは私自身が感じたことを含め、この 1 年の活動を振り返ってみたいと思います。

まずは、全国的に共通して言えることと思いますが、昨今、地域医療およびプライマリーケアに対する医学生・研修医の理解は高まって来ております。そして、この 1 年間は地域医療枠として入学しております 1 期生がいる学年がサテライトセンターで実習を行いました。そのためか、本来の体験型実習に引き続き行われる選択制である体験型実習では、当センターを含め多くの実習生が地域医療学を選択しました。現在、高齢化率の全国平均が 24% である中、久万高原町の高齢化率は 43% であります。しかし、2035 年には大都会東京でさえも 30% を超え、高齢化社会はもはや全ての医師にとって他人事ではなくなるのです。この現状を理解した上で実習に臨む様に実習生には伝え、将来を見据えた「最先端の医療」が展開されていることが伝わったのではないかと思います。

次に、地域医療における実習では、経験・体験が中心になる様に心掛けております。これまでも各スタッフにお世話になっております診療所実習、訪問診療、訪問看護、介護実習、リハビリ実習、採血実習のほか、参加型実習では生理検査室での実習を取り入れました。生理学実習以来の ECG 実習および呼吸機能検査実習を行ってまいりました。当センターで恒例となっております病棟患者全員の血圧測定を今年も体験型実習では担当してもらいましたが、参加型実習ではそれに加え胸部聴診も担当してもらいました。とかく専門性の高い疾患の集中しやすい大学病院とは異なり、**common disease** にしっかりと対応できる医師の育成の場として地域医療の果たす役割が大きいことを意識しました。

また、新たな取り組みとして臨床推論を含めた **feedback** 形式の勉強会および座学ではありますが **common disease** についてスライド発表を取り入れたことです。と言いましても、前者は昨今流行りのあてもの式の臨床推論ではなく、実際に診察した患者さんの診療内容を振り返る時間を十分にとる様にしましたことです。ホワイトボードを用い、その日の内容はその日のうちに理解してもらうことをモットーに実習生とともに取り組みました。高齢者に対するマナー、症候に応じて

めまぐるしく変化する鑑別疾患のリストアップ、検査成績の読み方、ガイドラインのおさらい、最新の研究内容など、iPad を駆使しながら多岐に亘る学習ができたのではないかと思います。後者に関しては、有志を募った勉強会を開催することができました。

最後に、以下に当サテライトセンターの主な活動実績について報告します。

1) 2013年5月7日～12月6日 地域医療実習（体験型実習）

例年同様に医学部5年生全員を対象とした実習を行いました。当サテライトセンターでは25週間（夏休み期間を除いて毎週）にわたって50名の学生が実習を行いました。

【実習スケジュールの1例】

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション・外来実習・処置室	内視鏡検査・超音波検査	病棟実習	介護実習	外来実習検査室
午後	特定高齢者施策 リハビリテーション	訪問診療	訪問看護	診療所	ケアカンファレンス・まとめ

2) 2013年12月9日～2014年5月2日 地域医療実習（参加型実習）

本年度から始まった参加型実習では全期間（16週間：8グループ）にわたり、14名の学生が当サテライトセンターでの実習を行いました。体験型実習に続いて2回目の実習になった学生も多く、スタッフの人員も限られているにもかかわらず、多くスタッフの方にご協力を頂きました。

この1年間、3名の初期研修医が地域医療の一貫として当院での研修を選択してくれました。現在、後期研修医1名（5年目）を家庭医療専門医研修で受け入れております。新しい専門医となる「総合診療医」の育成にあたっては久万高原町立病院の役割は今後大きくなることが予想されます。

全体としてみると今年度も大きな問題がなく活動ができました。久万高原町立病院のスタッフおよび関連施設、行政の関係者の方々にはこの場を借りて感謝申し上げます。一方で様々な課題も浮き彫りになってきており、学内・外で御迷惑をお掛けすることもあるとは思いますが、引き続き御指導のほどよろしく申し上げます。

## 地域医療学講座助教に就任して

地域医療学講座 助教 二宮 大輔

2014年4月から本講座助教として西予市サテライトセンターに赴任となりました二宮大輔と申します。私は平成16年自治医科大学卒で、愛媛県立中央病院での初期研修を終えた後に自治医大の卒後義務年限として、西予市立野村病院、久万高原町立病院、市立八幡浜総合病院に赴任し、それぞれ一般内科医として勤務しておりました。

どの勤務地も大変に思いで深く、野村病院へは学生実習・初期研修も含めて今回で7回目の赴任であり、久万高原町では本講座のサテライトセンターの立ち上げにも立ち会わせて頂き、当時の准教授でありました阿部先生のご指導を頂きながら学生実習のお手伝いもさせて頂きました。また、八幡浜赴任時には地域救急医療学講座のサテライトセンターの立ち上げもあり、本学の地域医療学系講座とは深い縁を感じずにはられません。

昨年は川本教授の勧めもあり自治医科大学地域医療学センターへの1年間の研修として、病棟・外来業務と一部研究に携わらせて頂きました。今までの赴任先での経験とこれまでご指導頂いた先生方とのつながりを活用して、愛媛県の地域医療の発展に微力ながら尽力したいと考えておりますので、今後のご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

## 「家庭医養成愛プログラム」後期研修に際して

地域医療支援センター 助教 長谷川 陽一

私は、2013年度から愛媛大学地域医療学講座で家庭医・総合診療医のシニアレジデント（後期研修医）として研修をさせて頂いている長谷川陽一と申します。

当講座のプライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門医のプログラムではおそらく1期生？として後期研修を開始できたことを非常に光栄に思っております。初期研修先の長野から故郷である愛媛にワクワクしながら戻ってきました。自分の僅かな経験からも、専門のトレーニングを受けた総合診療医が増えることは日本の今後の地域医療を考えた時に有効な手段だと考えます。一方で、積極的な情報発信をしないと、総合医を志向する若手はなかなか増えないと感じております。

専門医制度がこれから大きく変化していく時代の流れの中で、これまでに先輩方が築かれてきたものを学びながら、若手という自分の立場でしかできないことをできればと思っています。まだまだ未熟な部分が多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、何卒よろしくお願いいたします。

久万高原町立病院 内科 千崎 健佑

解釈モデル、BPSモデル、行動変容、ポートフォリオ・・・。

当初、聞き慣れない言葉が飛び交った後期研修が始まって今年で3年目です。

家庭医療専門医は地域のかかりつけ医として、老若男女の健康問題を専門とし、診療・予防医学・教育を「普通」に行うことができる専門医です。

現時点までの研修内容を振り返ります。必須研修項目は『救急』『診療所』『小児科』『病棟医』です。救急は大阪のER型救急部での研修でした。例えばグラム染色を外来で施行し、初回抗菌薬を投与してHospitalist（病棟総合医）に引き継ぐ・・・というところ。地域柄、○○区の「パンコ店」はTBのスーパーハイリスクといったような地域に即したEBM以外の救急のコツも学びました。診療所研修は指導医4名の滋賀の家庭医療専門クリニックで、学生（日米）・初期研修医・後期研修医（私）で大所帯です。数多く開催されるレクチャー、ポートフォリオ発表等の教育機会に恵まれました。小児科研修は初期研修を行った病院で、アレルギー／初診外来、乳児健診／予防接種外来でお世話になっています。現在進行形です。

現在は久万高原町立病院で、上記全てを実践できるよう、また救急～小児診療まで、多岐にわたる医療問題を地域に即した形で解決できるよう努力中です。家庭医療専門医を特徴づける能力の中に、「包括的で継続的、かつ効率的な医療を提供する能力」という項目があります。継続性を担保するためには人的パワーが必要です・・・臨床実習の医学生に少しでも地域医療の良さが伝わりますように。



## 学外講師

### 地域医療の実践「家庭医によるタバコフリー活動」(2013年6月21日、1時限)

かとうクリニック院長 加藤 正隆 先生

かとうクリニック院長の加藤正隆先生より、「家庭医によるタバコフリー活動」と題して熱のこもった授業を頂きました。ネクタイや胸章を禁煙印の入アクセサリーで統一した着こなしから発せられる強い言葉に学生全員が圧倒されたと思われます。医学部で授業中に音楽が流れるのは加藤先生の講義だけです。(気持が和みますね)。



### 地域医療の実践「地域医療における高齢者医療と福祉」(2013年10月31日、1時限)

綾川町国保陶病院 院長 大原 昌樹 先生

先生が目指す「地域をケアする」にふさわしい保健・医療・福祉の連携の中での病院づくりについてわかりやすくお話いただきました。緩和ケアを取り入れた終末期での在宅医療、最期を自宅で迎えられるように工夫を凝らした診療体制。障害者の支援を兼ねた院内での売店。そうした活動のなかで、学生や研修医を受け入れ地域医療の魅力を伝える取り組みも紹介していただきました。



### 地域医療の実践「地域医療における病院運営と高齢者ケア」(2013年11月21日、1時限)

済生会松山病院 臨床研修センター長 宮岡 弘明 先生

済生会松山病院は、県内でも人気のある臨床研修病院であり、毎年フルマッチをしています。研修では済生丸にも乗船して瀬戸内科の島々を巡る取り組みについても紹介していただきました。こうした地域医療に対する活動は、テレビでも取り上げられ、現在ドラマ化されています。高齢者が増える中、終末期に多くみられる嚥下障害に対する多職種連携の取り組みについてもわかりやすく説明していただき、チーム医療の重要性がよく理解できました。



## 地域医療の実践 「地域医療における心のケア」 (2013年12月5日、1時限)

愛媛県立中央病院 臨床研修センター長 山岡 傳一郎 先生

愛媛特産の蜜柑を一箱用意され、学生全員に配り、蜜柑から何を発想できるか、診療において最も基本である視診についての心構えを解説していただきました。学生には蜜柑を相手に問診、診察の **role play** を体験させ、また、鍼療法について、実際の鍼を活用し、どのように皮膚に刺すか蜜柑の皮表面を突き抜けるときの感触を体験させながら、壺刺激のための振動刺激の方法を先生の研究成果を交えて解説いただきました。先生は常日頃から思いもよらない視点からものごとを観察するととても柔軟な思考を持っており、いつも感心させられます。



## 教育関連活動

### 闘魂祭「臨床推論」(2013年1月19日、愛媛大学医学部地域医療支援センター)

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 徳田 安春 先生

「発熱をきたした腹痛患者に関する臨床推論」のワークショップが行われました。愛媛ではプライマリ・ケアが学生の中でも盛り上がりつつあります。



### 第1回多職種連携ワークショップ(2013年4月27日、松山コミュニティセンター)

ワークショップでは医学部4年生の上本明日香さんの素晴らしい司会により、医学生(愛媛県のみならず近隣の大学を含む)、医師、十全総合病院のリハビリテーション部の職員、松山大学薬学部の学生さんと一緒に、各職種の役割を学びながら高齢者の介護プランの作成を実践しました。特別講演の中村伸一先生のお話では、先生の名田庄診療所での活動を具体的な事例を交えて紹介していただき、地域をケアする熱い想いを共感しました。



### 第1回EBMワークショップin愛媛(2013年6月1日-2日、愛媛大学医学部地域医療支援センター)

医療従事者として、これらの情報を客観的かつ正確に評価し利用することは、質の高い医療を提供することにおいて重要なスキルとなります。EBMは日々の業務に医療情報を効率よく役立てるための最適ツールです。講師には東京北社会保険病院総合診療科の南郷栄秀先生をお迎えして、医学生、研修医、薬学学生が参加し、日々の臨床の中でいかに適切にEBM(根拠に基づいた医療)を使いこなすかについて学びました。



### 第13回愛媛プライマリ・ケア研究会（2013年7月20日、リジェール松山）

一般演題では予防、臨床、教育、患者指導などプライマリ・ケアにふさわしい7題の発表があり、特別講演では、帝京大学ちば総合医療センター地域医療学教授の井上和男先生より高知県山間のへき地診療所での勤務経験から、それを基にした教育（時間の共有）と日々の仕事から生まれてくる疑問や仮説を基にした研究活動についての熱い講演をしていただきました。



### 第1回中国・四国地域医療ワークショップ（2013年8月23-24日、西予市立野村病院）

広島・徳島・愛媛大学の各学生が集まり、西予市立野村病院での実習とその後実習を通じて体験できたこと、希望や感じたことについてのワークショップを実施しました。夜間の懇親会では、病院に勤務する後期研修医を交えて、医師になった動機、地域医療に対する思いなどに対して郷土料理を味わいながら3時間にわたって交流を計りました。



### 西予市地域医療セミナー（2013年9月1日、愛媛県歴史文化博物館）

愛媛県西予市における地域医療の現状を理解し、これからの地域医療の在り方について考えることを目的として、敬作とおイネの会実行委員会主催により開催されました。私からは「これからの地域医療の在り方について」と題して、地域医療の現状を分析し今後の予想される状況のなかでこれからの地域医療の在り方について講演しました。愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター長の高田清式先生からは「愛媛県における地域医療の現状と課題」と題して、愛媛大学医学部卒業生の県内での活動状況、医学生に対する地域医療教育の現状、新病院に対する期待などについて詳しく御講演いただきました。その後、医師会長である三好康司先生、西予市市民代表、宇和病院副院長の菊池良夫先生、野村病院院長の守田人司先生、そして地域医療学基礎配属の上本明



日香さん・小糸秀さん・鈴木萌子さんより西予市地域医療への提言が行われました。満員の会場からもたくさんの質問があり今後の西予市の地域医療を考える上で有意義な会でした。

### **第13回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会（2013年10月19日、高知市）**

演題名：西予市野村町地域在住者における死亡に影響する背景因子に関する調査

筆頭発表者氏名（ふりがな）：小糸 秀（こいと しゅう）

筆頭発表者所属：愛媛大学医学部4回生(地域医療学講座基礎配属所属)

共同発表者氏名：川本龍一<sup>2)</sup>、鈴木萌子<sup>1)</sup>、上本明日香<sup>1)</sup>、阿部雅則<sup>2)</sup>、楠木 智<sup>2)</sup>、小原克彦<sup>3)</sup>、三木哲郎<sup>3)</sup>

共同発表者所属：1) 愛媛大学医学部4回生（地域医療学講座基礎配属）

2) 愛媛大学医学部地域医療学講座 3) 愛媛大学医学部老年・神経・総合内科学講座

地域医療学講座を代表して小糸さんが発表しました。フロアーからはいくつか質問があり、家族関係や地域性、病院からの距離などとの関係に関するもので、小糸さんは的確に応答されました。



## 第3回中四国地域医療フォーラム

【日時】平成25年3月10日（日）10時～

【場所】松山市総合コミュニティセンター 大会議室

〈プログラム1〉

10:00 開会挨拶 高田 清式（愛媛大学 医学部附属病院 総合臨床研修センター長）

10:05 愛媛県挨拶 神野 健一郎 氏（愛媛県保健福祉部長）

10:10 報告 テーマ:「地域卒学生のキャリアパスについて」

座長 阿部 雅則（愛媛大学医学部 地域医療学講座）

福田 吉治 先生（山口大学医学部 地域医療推進学講座）

谷口 栄作 先生（島根大学医学部 地域医療支援学講座）

谷口 晋一 先生（鳥取大学医学部 地域医療学講座）

竹内 啓祐 先生（広島大学医学部 地域医療システム学講座）

岩瀬 敏秀 先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科岡山県地域医療支援センター岡山大学支部）

泉川 美晴 先生（香川大学医学部附属病院 地域医療教育支援センター）

谷 憲治 先生（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 総合診療医学分野）

阿波谷 敏英 先生（高知大学医学部 家庭医療学講座）

高橋 敏明 先生（愛媛大学医学部附属病院 地域医療支援センター）

12:00 休憩

12:15 ランcheonミーティング テーマ「自県以外の地域卒学生」

【検討課題】

他大学、他県関係者との連携・情報共有など

13:00 休憩

〈プログラム2〉

13:15 ワークショップ テーマ:「地域志向の学生をどう育てるか」

座長 川本 龍一（愛媛大学医学部 地域医療学講座）

【検討課題】

○地域卒学生の募集

○地域医療の学部教育

○地域医療の卒後臨床教育 など

14:25 閉会挨拶 川本 龍一（愛媛大学医学部 地域医療学講座）

14:30 終了

◎ 2012年度 中四国地域医療フォーラムを開催しました。【2月18日(日)】

愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センターは愛媛大学大学院医学研究科地域医療学講座に所属し、2月18日(日)に2012年度中四国地域医療フォーラムを松山市総合コミュニティセンターにて開催しました。

高田清式地域医療支援センター長の開会挨拶の後、神野健一愛媛県保健福祉部長から挨拶がありました。

続いて、岩瀬敏秀地域医療推進学講座座長に「地域卒学生のキャリアパスについて」をテーマとして、中四国地域各大学の代表者から各学域内部の報告がありました。

地域卒学生の募集促進の仕組み、診療科別キャリア形成プログラムの作成、キャリア教育課程を活用した配属先決定、各学生の履修記録や進路記録のデータベースによるキャリアデザインなど、特色ある各大学の取組み報告に対し、活発な質疑が行われました。

その後、川本龍一地域医療学講座座長を議長に、「地域志向の学生をどう育てるか」をテーマとしてワークショップが行われました。

フォーラムの最後は、学生によるワークショップが閉幕され、中四国4大学14名の学生が修業目標について報告を完毕して学びました。

第3回となる本フォーラムには、中四国の各県立医療関係の団体、大学から46名の参加がありました。参加者によってそれぞれ異なり深い関心となりました。



## 第13回愛媛プライマリ・ケア研究会

### 愛媛大学大学院社会医学コースフォーラム

【日時】平成25年7月20日(土) 16時00分～

【場所】リジェール松山 8F 「クリスタルホール」

松山市南堀端2-3 (JA愛媛8F) TEL 089-948-5631

【一般演題】 16:00～ (発表10分、討論5分)

座長： 松浦 文三 先生 (愛媛大学大学院 地域生活習慣病・内分泌学講座)

1. 総合診療医に求められる消化器疾患診療能力の検討

—当院総合診療科年間初診患者約5000例の検討から—

愛媛県立中央病院総合診療科

村上晃司、本間義人、清水元気、山崎直美、明坂和幸、杉山圭三、玉木みずね、  
山岡傳一郎、北出公洋

2. 経皮内視鏡的胃瘻造設術後の早期死亡に関する検討

済生会松山病院内科

宮本裕也、村上英広、青野道子、中口博允、久米美沙紀、山本健、稲田暢、堀和子、  
梅岡二美、沖田俊司、宮岡弘明、岡田武志

座長： 宮岡 弘明先生 (済生会松山病院 内科)

3. 急性疾患および救急患者で葛根湯が著効した2症例の検討

愛媛県立中央病院総合診療部

清水元気、本間義人、山崎直美、明坂和幸、杉山圭三、玉木みずね、村上晃司、  
山岡傳一郎、北出公洋

4. 当院内科外来での喘息吸入薬使用状況の分析

愛媛生協病院内科

城内謙治

5. 地域中核病院の救急外来で経験した1型糖尿病の1例

1) 愛媛大学医学部老年・神経・総合診療内科、2) 地域医療学、3) 西予市立野村病院内科  
加藤丈陽<sup>1) 3)</sup>、川本龍一<sup>2) 3)</sup>、楠木 智<sup>2) 3)</sup>、大塚伸之<sup>3)</sup>

座長： 杉山 圭三 先生 (愛媛県立中央病院 総合診療科)

6. 愛媛大学地域医療学講座 基礎配属学生の実習内容と取り組み

1) 愛媛大学医学部医学科4年(基礎配属)、2) 愛媛大学医学部地域医療学講座  
上本明日香<sup>1)</sup>、小糸秀<sup>1)</sup>、鈴木萌子<sup>1)</sup>、川本龍一<sup>2)</sup>、阿部雅則<sup>2)</sup>、楠木 智<sup>2)</sup>

7. 学びの意欲はどこからやってくるのか?

愛媛医療生協 愛媛生協病院 家庭医療科・内科

原 穂高

【特別講演】 18:00～

座長： 川本 龍一 先生 (愛媛大学大学院 地域医療学講座)

「山村診療所での研究経験 —Practice based research の紹介—」

帝京大学らび総合医療センター 地域医療学教授 井上 和男 先生

## 愛媛県主催医学生サマーセミナー

【日 時】平成 25 年 8 月 17 日（土） 16 時 00 分～

【場 所】愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター 1 階講義室

13：00～13：05 開会挨拶 医療対策課長

13：05～13：35 司会 医療対策課 主幹 河瀬 利文

「地域医療支援センターの役割」

愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター 高橋 敏明

13：35～13：40 ワークショップの進め方の説明

進行 愛媛大学地域医療学講座教授 川本 龍一

13：40～15：00 ワークショップ

《テーマ》

「自治医科大学と愛媛大学地域枠学生の卒業後の協力体制について」

15：00～15：30 討論発表

15：30 閉会挨拶

愛媛大学医学部地域医療支援センター 高田 清式

ワールドカフェ方式でのワークショップ

「地域医療の現場における『地域枠卒業医師』と『自治医大卒業医師』」

### 進行

愛媛大学医学部地域医療学講座 川本 龍一

### ファシリテーター

(1 班) 済生会今治第二病院 田丸 正明

愛媛県立中央病院 杉山 圭三

(2 班) 愛媛十全医療学院附属病院 高原 完祐

愛媛大学医学部地域医療学講座 阿部 雅則

(3 班) 西予市立宇和病院 菊池 良夫

かとうクリニック 加藤 正隆

(4 班) 愛媛県立中央病院 村上 晃司

(5 班) 愛大医学部地域医療支援センター 高橋 敏明

県職員

(6 班) 愛大医学部地域医療支援センター 高田 清式

県職員





# 地 域 医 療 学

## －「地域を舞台に学ぶ」－

### ①講座の紹介

地域医療学講座は、平成 21 年 1 月 1 日、地域での教育・研究・診療を目的として愛媛県からの寄附講座として設立され、現在、西予市立野村病院および久万高原町立病院に講座の地域サテライトセンターを設け活動しています。地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しており、このような現状のなか地域における住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。本講座では、「地域に生き」、「地域で働く」医師を「地域を舞台に育てる」を合言葉に、地域に根付いた教育と研究、医療支援活動を行い、総合医育成を目指しています。

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



西予市立野村病院




久万高原町立病院

### ②地域サテライトセンターの特徴と研修プログラム

1. 主な研修場所は、地域における救急を含む一次、二次医療を担当する一般病院であり、紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診、入院を受け入れており、救急を含む common disease や common problem を十分に経験する機会を保障しています。
2. 臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修です。
3. 指導医も臓器別専門医として指導をするのではなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 Problem-based Learning を行いやすい環境を保障しています。
4. 研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。
5. いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり、地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。
6. 医師カンファレンスだけでなく各種コメディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行っており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身につけるのに適した環境を保障しています。
7. 学習環境の保証、教育法の工夫として、研修医が文献や各種二次資料の検索を行なえるコンピューターを配備し、問題解決のための自己学習や EBM を実践できる環境を保障しています。
8. より効果的な教育方法の開発に取り組み、マニュアル化し、研修に取り入れています。
9. 研修内容は研修医の到達度に応じてステップアップしていくシステムをとっており、患者にとって安全で、かつ研修医も安心して研修が受けられる環境を保障しています。
10. 精神的、身体的に健康で、経済的にも余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇、給料を保障しています。
11. 指導医の各種研修への参加保障など指導医養成 Faculty Development を重視しています。

12. 指導医が研修指導にあたる時間を確保するとともに、屋根瓦方式による指導体制をとることで、研修医が十分な指導を受けられる環境を保障しています。

研修の具体例

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
研修内容	初期臨床研修 (2年)		内科中心の研修 (1~2年)		地域医療 (1~2年)		自由研修 (1~4年)		
研修施設	臨床研修病院		大・中規模病院		地域中核病院・ 診療所		希望医療機関		
資格			日本内科学会 認定内科医取得				日本内科学会総合内科専門医、 日本プライマリ・ケア連合学会 <b>認定・家庭医療専門医等</b> 総合関連専門医および 各種専門医取得		

※当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「**地域医療・総合医後期研修コース**」、**「家庭医養成愛プログラム**」と臨床経験5年以降の医師向け「**地域医療生涯研修コース**」を用意しています。「地域医療」での研修を希望して、診療所に1年単位で勤務することが難しい場合には、指導医がいる診療所において、週1~2回程度代診する形で診療所を経験することも可能。

※研修内容は、愛媛大学医学部総合臨床研修センターの支援のもと、本コース参加者と研修医療機関との話し合いで決定します。また、定期的に本コース参加医療機関指導医と研修参加者の研修会を開催し、研修の振り返りと研修内容の充実を計ります。

③経験目標

当プログラムを修了した医師は、地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、医療・保健・福祉までを含めた幅広い分野の人々と協働できることを目標としています。

④指導医

- ・川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、米国内科学会上級会員（Fellow））
- ・熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、厚生労働省指定・卒後臨床研修指導医）

⑤研修に関する行事（西予市地域サテライトセンターの例）

月曜日：抄録会、火曜日：病棟カンファレンス・褥瘡回診、水曜日：レ線カンファレンス・健康教室、木曜日：訪問カンファレンス、金曜日：病棟カンファレンス・総回診

⑥研修終了後について

個人の希望に応じて愛媛大学の関連病院で勤務あるいは大学院進学

⑦関連病院との連携

臨床コース：希望により、県内の教育病院で研修を積み、日本プライマリ・ケア連合学会、日本内科学会、日本老年医学会等の認定医取得後、さらに専門医取得を計ります。

⑧専門研修の問い合わせ先

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53（西予市立野村病院）

## 初期研修・後期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えています。

- 初期臨床研修 2年目の地域医療研修

西予市サテライトセンター：愛媛大学病院 2名、自治医科大学病院 4名

久万高原サテライトセンター：愛媛大学病院 2名

- 後期臨床研修 3年目の地域医療研修

西予市サテライトセンター：愛媛大学卒業 1名、自治医科大学卒業 1名

## 2013 年度講義日程

### 前期課程

	時 限	テ ー マ	所 属	担当医師
5月31日金曜日	1時限	地域医療の理論 「家庭医としての役割」	地域医療学	川 本
6月13日木曜日	2時限	地域医療の理論 「患者さんの視点」	地域医療学	阿 部
6月21日金曜日	1時限	地域医療の実践 「地域医療における禁煙活動」	学外講師	加藤（川本）
6月27日木曜日	2時限	地域医療の理論 「健康教室と行動変容」	地域医療学	川 本
7月5日金曜日	1時限	地域医療の理論 「総合医と専門医の役割」	地域医療学	阿 部

### 後期課程

	時 限	テ ー マ	所 属	担当医師
10月10日木曜日	1時限	地域医療の実践 「地域医療における解釈モデルの活用」	地域医療学	川 本
10月17日木曜日	1時限	地域医療の理論 「EBM と NBM」	地域医療学	川 本
10月24日木曜日	1時限	地域医療の実践 「地域医療と多職種連携」	地域医療学	川 本
10月31日木曜日	1時限	地域医療の実践 「地域医療における高齢者医療と福祉」	学外講師	大原（川本）
11月14日木曜日	1時限	地域医療の実践 「在宅医療とは」	地域医療学	川 本
11月21日木曜日	1時限	地域医療の実践 「地域医療における病院運営と高齢者ケア」	学外講師	宮岡（川本）
11月28日木曜日	1時限	地域医療の実践 「地域医療と総合診療医」	地域医療学	阿 部
12月5日木曜日	1時限	地域医療の実践 「地域医療における心のケア」	地域医療学	山岡（川本）
12月12日木曜日	1時限	地域医療への提言「学生ディベート」	地域医療学	川本・阿部
1月28日木曜日	1時限	地域医療の実践 「地域医療と予防医学」	地域医療学	熊 木

### 地域医療ワークショップ（地域枠学生対象）

月 日	曜日	内 容
4月18日	木	第19回：平成25年度1年生と顔合せ（地域枠全学年対象）
5月23日	木	第20回：地域を視る（地域枠1年生対象）
6月20日	木	第21回：医師から見たチーム医療（地域枠2年生対象）
7月4日	木	第22回：医師のプロフェッショナリズム（地域枠3年生対象）
7月25日	木	第23回：地域医療における解釈モデル（地域枠4年生対象）
10月10日	木	第24回：介護体験実習報告会（地域枠1年生対象）
10月24日	木	第25回：地域をケアする（地域枠2年生対象）
11月7日	木	第26回：胸写を読む（地域枠3年生対象）
11月21日	木	第27回：臨床推論のプロセス（地域枠4年生対象）
12月12日	木	第28回：「地域医療崩壊」の処方箋を考える（地域枠1年生対象）
26.1月16日	木	第29回：医師のプロフェッショナリズム（地域枠2年生対象）

## 基礎配属学生の研究成果

### 第4回日本プライマリ・ケア連合学会（2013年5月18-19

医学科5年生を対象とした学生の進路選択と地域医療の崩壊に対する意識調査  
～地域医療実習が学生にもたらす変化～

上本明日香<sup>1)</sup>、川本龍一<sup>2)</sup>、阿部雅則<sup>2)</sup>、楠木 智<sup>2)</sup>

1) 愛媛大学医学部医学科4年生（地域医療学講座基礎配属）、2) 愛媛大学医学部地域医療学講座

【目的】学生が重視する進路決定因子、学生の地域医療の崩壊や医師不足問題に関する認識度を探り、それらが地域医療実習の前後でどのように変化するかを解析することで、地域医療に従事する学生の背景因子や地域医療実習が学生に与える影響について明らかにする。【対象と方法】対象は愛媛大学医学部の5年生99名であり、無記名アンケート方式でパーソナルデータならびに進路決定における重要因子、医師不足問題の原因として考えられる項目の重要度を検討し、またこれらの因子が実習前後でどう変化するか解析した。【結果】地域実習前のアンケート調査では医師不足地域での勤務が可能であると解答した学生が重視する将来決定因子として出身高校、配偶者の就職先、配偶者の意向、子供の教育環境、自分のキャリア形成、気候や自然環境、収入の7項目が有意な相関を示した。また多変量解析により気候や自然環境を重視する、子供の教育環境を重視しない、公立高校出身であるの3項目が独立して有意な背景因子である事が明らかとなった。しかしこれらの因子は実習後のアンケート調査では有意な関係はみられなかった。実習前後では診療科の社会的評価、雰囲気、自身の診療科への適正、やりがいの4項目を進路決定において重視する学生の割合が有意に増加していた。地域医療の崩壊の認識度、地域での勤務を可能とする学生の割合も有意差は無いものの増加傾向にあった。【結論】地域医療に従事する学生の背景因子としては自然環境を重視する、子供の教育環境を重視しない、公立高校出身であるの3つが重要である事が示された。また地域医療実習は学生の地域医療に対する認識を変化させ、地域医療に興味を示さなかった学生において、将来の選択肢の1つとして地域医療が含まれるようになるという変化をもたらす事が示された。

### 第12回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会（2013年10月19-20日、高知市）

西予市野村町地域在住者における死亡に影響する背景因子に関する調査

小糸 秀<sup>1)</sup>、川本龍一<sup>2)</sup>、鈴木萌子<sup>1)</sup>、上本明日香<sup>1)</sup>、阿部雅則<sup>2)</sup>、楠木 智<sup>2)</sup>、小原克彦<sup>3)</sup>、三木哲郎<sup>3)</sup>

1) 愛媛大学医学部4年生（地域医療学講座基礎配属）、2) 愛媛大学医学部地域医療学講座 3) 愛媛大学医学部老年・神経・総合内科学講座

【目的】西予市野村町は、人口の37%が65歳以上の高齢者で占められており、心脳血管疾患をはじめとした生活習慣病のきわめて多い地域である。こうした疾患は高齢者の生活の質（QOL）をきわめて悪くすることから、その影響を検討することは重要な課題である。今回われわれは、2006年度からの前向き調査のデータを基に予後の指標として死亡に注目し、背景因子との関連性を明らかにしたので報告する。【対象と方法】西予市野村町に在住する18歳以上の住民に対して2002年

から追跡調査を行っており、2006年度に住民2775人に対して性別と年齢、心脳血管疾患の既往歴、日常生活動作（ADL）、老研式活動能力指標（TMIG）、うつ状態、主観的幸福感、主観的健康感からなる自記式アンケート調査を郵送法にて実施した。検討では、各種背景因子と2012年度に住民基本台帳から確認しえた死亡との関係について解析した。【結果】回答不備例を除いた1825人、男性767人（60±13歳）女性1058人（62±12歳）が分析可能であった。2012年12月までに91人の死亡が確認された。死亡と背景因子と単関係については、男性（ $p=0.002$ ）、年齢（ $P<0.001$ ）、心脳血管疾患（ $P<0.001$ ）、TMIG（ $P<0.001$ ）、ADL（ $P<0.001$ ）、主観的健康感（ $P<0.001$ ）が有意な関連を示した。死亡を説明変数とする多変量解析では、男性（ $\beta=0.080$ 、 $P=0.001$ ）、年齢（ $\beta=0.091$ 、 $P<0.001$ ）、心脳血管疾患（ $\beta=0.073$ 、 $P=0.002$ ）、ADL（ $\beta=-0.070$ 、 $P=0.004$ ）、主観的健康感（ $\beta=-0.075$ 、 $P=0.002$ ）が有意な独立説明変数であった。【結語】地域在住者において主観的健康感は予後を規定する重要な因子であり、「自分は健康である」と思っている人は、5年生存率が高いということが示された。

#### 第11回愛媛大学医学部医科学研究発表会（2013年9月19-20日、東温市）

野村町における住民の主観的健康感—自らが“健康だ”と感じられるには—

鈴木萌子<sup>1)</sup>、川本龍一<sup>2)</sup>、小糸 秀<sup>1)</sup>、上本明日香<sup>1)</sup>、阿部雅則<sup>2)</sup>、楠木 智<sup>2)</sup>、小原克彦<sup>3)</sup>、三木哲郎<sup>3)</sup>

1) 愛媛大学医学部4回生（地域医療学講座基礎配属）、2) 愛媛大学医学部地域医療学講座、3) 愛媛大学医学部老年・神経・総合内科学講座

【目的】健康とは、肉体的、精神的、そして社会的に完全に良好な状態であり単に疾病や虚弱がないというだけでない」と世界保健機関(WHO)で定義されており、高齢化が進むわが国にとって高齢者の主観的健康感の充実を図る取り組みは、高齢者の健康増進を考える上で重要な課題の一つである。今回われわれは、2006年度の横断調査のデータを基に主観的健康感に関する要因について検討したので報告する。【対象と方法】西予市野村町に在住する18歳以上の住民に対して2002年から追跡調査を行っており、2006年度に住民2775人に対して性別と年齢、心脳血管疾患の既往歴、日常生活動作（ADL）、老研式活動能力指標（TMIG：手段的自立、知的能動性、社会的役割）、うつ状態、主観的幸福感、主観的健康感からなる自記式アンケート調査を郵送法にて実施した。検討では、各種背景因子と主観的健康感との関係について解析した【結果】回答不備例を除いた1864人、男性7780人（60±13歳）女性1084人（62±12歳）が分析可能であった。主観的健康感に影響をする背景因子として、年齢（ $P<0.001$ ）、心血管疾患（ $P<0.001$ ）、ADL（ $P<0.001$ ）、TMIG各項目（各々 $P<0.001$ ）、うつ状態（ $P<0.001$ ）、主観的幸福感（ $P<0.001$ ）が有意な単相関を示した。主観的健康感を説明変数とする多変量解析では、年齢（ $\beta=-0.169$ 、 $P<0.001$ ）、心血管疾患（ $\beta=-0.124$ 、 $P<0.001$ ）、ADL（ $\beta=0.062$ 、 $P=0.013$ ）、知的能動性（ $\beta=0.086$ 、 $P<0.001$ ）、社会的役割（ $\beta=0.057$ 、 $P=0.032$ ）、うつ状態（ $\beta=-0.099$ 、 $P<0.001$ ）、主観的幸福感（ $\beta=0.373$ 、 $P<0.001$ ）が独立して有意な説明変数であった。【結語】地域在住者における主観的健康感には、病歴、基本的・手段的ADLの他、精神的状況など多くの因子が関わっており、主観的健康観の向上には生活の背景にあるものを総合的に把握する必要があることが示唆された。

### 第5学年臨床実習 地域医療学 班別名簿

		西予市立野村病院		久万高原町立病院	
1班	○池田 愛璃	小國 舜介		宗宮 快	藻利 優
2班	岩田 康平	宇都宮 秀和		○大瀧 彩乃	西川 洋
3班	薦田 宗則	三島 修治		久米 達彦	○新田 詩織
4班	鳥飼 泰彦	○藤石 琴		越智 満久	兵頭 洋平
5班	佐藤 潤弥	中泉 貴之		岡部 光	○福岡 佳奈子
6班	○櫻井 優子	松田 隼弥		三品 善之	本岡 太心
7班	佐野 自由	濱田 泰輔		城戸 信輔	○多田 美苑
8班	山崎 大輔	○横本 祐希		年森 亘	中須賀 允紀
9班	河野 佑典	宮部 亮		田口 禎浩	○山澤 令菜
10班	田手 壮太	○伊藤 千尋		加藤 宏章	野田 遼太郎
11班	阿部 陽介	西田 敬悟		垣生 恭佑	○藤本 日向子
12班	今井 統	長谷川 雄大		大坪 治喜	○桑原 奈都美
13班	前田 真吾	○福岡 恵梨菜		石谷 一馬	田中 諒
14班	坂本 明優	谷 良介		山田 瑞穂	○松場 瞳
15班	○仁志川 晴香	三宅 泰一郎		大月 悠平	千葉井 紀人
16班	竹原 真人	○山泉 文香		小山 豊太	高木 康平
17班	井上 知謙	○福田 亜純		川合 喬之	近藤 賢之
18班	高山 寛己	○八木 千裕	吉田 諭	風谷 卓郎	○末広 聡美
19班	末田 敬志朗	○橘 侑南		○岡部 はるか	桐山 洋介
20班	○久保田 晴菜	○永井 由紗		北川 寛	吉田 圭佑
21班	高田 礼	○猪谷 聡子		小池 宏紀	○小林 侑華子
22班	羽成 敬広	○岩野 祥子		岩田 真治	○岡本 明子
23班	古閑 丈裕	渡部 貴文		○正司 晃子	○平松 由布季
24班	○秋山 佳央里	○中川 みく		岩橋 大輔	前田 康介
25班	○立川 彩織	○張 媛		牧田 憲二	洲之内 堯

合計 102 名（うち女子 33 名）＜○印は、女子を示す。＞

## 業 績

### 【原著】

Kawamoto R, Tabara Y, Kusunoki T, Abe M, Kohara K, Miki T. A slightly high-normal glucose level is associated with increased arterial stiffness in Japanese community-dwelling persons with pre-diabetes.

Vasc Med 2013; 18: 251-256. [2.080]

Kawamoto R, Kusunoki T, Abe M, Kohara K, Miki T. An association between body mass index and high-sensitivity C-reactive protein concentrations is influenced by age in community-dwelling persons.

Ann Clin Biochem 2013; 50: 457-464. [1.991]

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Kusunoki T, Abe M, Miki T. Serum uric acid is more strongly associated with impaired fasting glucose in women than in men from a community-dwelling population.

PLoS One 2013; 13: e65886. [3.730]

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Kusunoki T, Abe M, Miki T. Synergistic influence of age and serum uric acid on blood pressure among community-dwelling Japanese women.

Hypertens Res 2013; 36: 634-638. [2.791]

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Miki T, Kusunoki T, Abe M, Katoh T. Hematological parameters are associated with metabolic syndrome in Japanese community-dwelling persons.

Endocrine 2013; 43: 334-341. [2.225]

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Kusunoki T, Abe M, Miki T. Interaction between serum uric acid and triglycerides in relation to prehypertension in community-dwelling Japanese adults.

Clin Exp Hypertens 2013 Oct 28. [1.276]

Kawamoto R, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N. Carotid atherosclerosis as a surrogate maker of cardiovascular disease in diabetic patients.

ISRN Endocrinol 2013; 2013: 979481.

Furukawa S, Saito I, Yamamoto S, Miyake T, Ueda T, Niiya T, Torisu M, Kumagi T, Sakai T, Minami H, Miyaoka H, Sakurai S, Matsuura B, Onji M, Tanigawa T. Nocturnal intermittent hypoxia as an associated risk factor for microalbuminuria in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.

Eur J Endocrinol 2013; 169: 239-246. [3.136]



Utsunomiya S, Matsuura B, Ueda T, Miyake T, Furukawa S, Kumagi T, Ikeda Y, Abe M, Hiasa Y, Onji M. Critical residues in the transmembrane helical dundle domains of the human motilin receptor for erythromycin binding and activity.

Regul Pept 2013; 180: 17-25.

Miyake T, Kumagi T, Furukawa S, Abe M, Hiasa Y, Matsuura B, Onji M. Body mass index is the most useful predictive factor for the onset of nonalcoholic fatty liver disease: a community-based retrospective longitudinal chort study.

J Gastroenterol 2013; 48: 413-422. [3.788]

Miyake T, Abe M, Tokumoto Y, Hirooka M, Furukawa S, Kumagi T, Hamada M, Kawasaki K, Tada F, Ueda T, Hiasa Y, Matsuura B, Onji M. B cell-activating factor is associated with the histological severity of nonalcoholic fatty liver disease.

Hepatol Int 2013; 7: 539-547. [2.642]

Mori K, Yamanishi H, Ikeda Y, Kumagi T, Hiasa Y, Matsuura B, Abe M, Onji M. Oral administration of carbonic anhydrase I ameliorate murine experimental colitis induced by Foxp3 - CD4 + CD25 - T cells.

J Leukoc Biol 2013; 93: 963-972. [4.568]

Kuroda T, Kumagi T, Yokota T, Seike H, Nishiyama M, Imai Y, Inada N, Shibata N, Imamine S, Okada S, Koizumi M, Yamanishi H, Azemoto N, Miyaike J, Tanaka Y, Tatsukawa H, Utsunomiya H, Ohno Y, Miyake T, Hirooka M, Furukawa S, Abe M, Ikeda Y, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M, EPOCH Study Group. Improvement of long-term outcomes in pancreatic cancer and its associated factors within the gemcitabine era: A collaborative retrospective multicenter clinical review of 1, 082 patients.

BMC Gastroenterol 2013; 13: 134. [2.110]

Koizumi M, Hiasa Y, Kumagi T, Yamanishi H, Azemoto N, Kobata T, Matsuura B, Abe M, Onji M. Increased B cell-activating factor promotes tumor invasion and metastasis in human pancreatic cancer.

PLoS One 2013; 8: e71367. [3.730]

畔元信明, 熊木天児, 黒田太良, 小泉光仁, 松浦文三, 日浅陽一, 恩地森一: 経過をおえた膵癌 stage IVb 死亡症例における予後因子の検討.

愛媛医学 2013 ; 32 : 15-18.

## 【症例報告】

小川泰司, 長谷部昌, 兼光梢, 宮池次郎, 村上貴俊, 上原貴秀, 中西征司, 宮池次郎, 大本昌樹,

梅田政吉, 熊木天児, 堀池典生: ERCPにて膵管狭窄像を認めなかったIgG4関連硬化性胆管炎の1例.

臨床今治 2013; 25: 25-30.

花山雅一, 阿部雅則, 小泉洋平, 廣岡可奈, 徳本良雄, 廣岡昌史, 越智裕紀, 壺内栄治, 熊木天児, 池田宜央, 松浦文三, 恩地森一, 日浅陽一: 悪性リンパ腫に対してRituximabを使用しHBV再増殖による重症肝炎を来した3例 —免疫抑制・化学療法に伴うB型肝炎対策ガイドラインの検証—.

愛媛医学 2013; 32: 133-137.

### 【著書】

川本龍一: III. 在宅医療 2. 在宅ターミナルケア.

河野公一・福井次矢・倉本 秋・米田 博編. 金芳堂, 京都, 47-54, 2013.

### 【総説】

Miyake T, Kumagi T, Furukawa S, Tokumoto Y, Hirooka M, Abe M, Hiasa Y, Matsuura B, Onji M. Non-alcoholic fatty liver disease: Factors associated with its presence and onset.

J Gastroenterol Hepatol 2013; 28: 71-78. [3.325]

### 【その他】

Miyake T, Kumagi T, Furukawa S, Abe M, Hiasa Y, Matsuura B, Onji M. Reply to the letter by Lai et al. regarding "Body mass index is the most useful predictive factor for the onset of nonalcoholic fatty liver disease."

J Gastroenterol 2013; 48: 550-551. [3.788]

### 【学会発表】

#### 第24回日本老年医学会四国地方会 (2013年2月17日、高松市)

地域在住女性の血圧に対する年齢と血清尿酸値の影響について

川本龍一, 田原康玄, 楠木 智, 阿部雅則, 原克彦, 三木哲郎

#### 第55回日本老年医学会総会 (2013年6月4-6日、大阪)

地域在住者における体格指数と高感度C-reactive proteinとの関係は年齢によって影響を受ける

川本龍一, 楠木 智, 田原康玄, 小原克彦, 阿部雅則, 三木哲郎

#### 第55回日本老年医学会総会 (2013年6月4-6日、大阪)

地域在住者における各種脂質指標とメタボリックシンドロームおよびインスリン抵抗性との関係に関する検討

加藤丈陽, 川本龍一, 田原康玄, 楠木 智, 小原克彦, 三木哲郎

#### **第4回日本プライマリ・ケア連合学会 (2013年5月18-19日、仙台市)**

地域在住の特定検診異常者を対象としたノルディックウォークを中心とした運動療法の効果に関する検討

川本龍一, 楠木 智, 大塚伸之, 阿部雅則

#### **第4回日本プライマリ・ケア連合学会 (2013年5月18-19日、仙台市)**

医学科5年生を対象とした学生の進路選択と地域医療の崩壊に対する意識調査～地域医療実習が学生にもたらす変化～

上本明日香, 川本龍一, 楠木 智, 大塚伸之, 阿部雅則

#### **第12回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会 (2013年10月19-20日、高知市)**

西予市野村町地域在住者における死亡に影響する背景因子に関する調査

小糸 秀, 川本龍一, 上本明日香, 上本明日香, 鈴木萌子, 阿部雅則, 楠木 智

#### **第51回日本糖尿病学会中国四国地方会 (2013年11月15-16日、岡山市)**

地域在住のIFGおよび糖尿病患者における生命予後に関する前向き調査

川本龍一, 楠木 智, 加藤丈陽, 田原康玄, 小原克彦, 三木哲郎

#### **第99回日本消化器病学会総会 (2013年3月21-23日、鹿児島)**

肝硬度と門脈圧亢進症評価における real-time tissue elastography と transient elastography の比較

廣岡昌史, 日浅陽一, 恩地森一, 越智裕紀, 小泉洋平, 徳本良雄, 阿部雅則, 松浦文三, 熊木天児

#### **European Association for the Study of the Liver (2013. 4. 24-28, Amsterdam The Netherlands)**

Alkaline Phosphatase Values are a Surrogate Marker in Prediction of Transplant Free Survival in Patients with Primary Biliary Cirrhosis – an International, Collaborative Analysis

Lammers WJ, Buuren HR, Hirschfield GM, Pares A, Kumagi T, Caballeria L, Invernizzi P, Lleo A, Battezzati PM, Corpechot C, Floreani A, Cazzagon N, Mayo MJ, Talwalkar JA, Imam M, Burroughs AK, Pieri G, Nevens F, Mason AL, Poupon R, Janssen HLA, Lindor KD, Hansen BE, Global PBC Study Group

### **DDW meeting 2013 (2013. 5. 18-21, Orlando USA)**

Critical residues in the transmembrane helical bundle domains of the human motilin receptor for motilin and erythromycin binding and activity

Matsuura B, Utsunomiya S, Todo H, Yamamoto S, Miyake T, Nunoi H, Kumagi T, Ikeda Y, Abe M, Hiasa Y, Onji M

Changes in the characteristics and prognosis of pancreatic cancer within the gemcitabine era and the issues facing elderly patients

Kuroda T, Kumagi T, Yokota T, Seike H, Miyaike J, Nishiyama M, Imai Y, Tatsukawa H, Shibata N, Koizumi M, Yamanishi H, Azemoto N, Abe M, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M

Increased B cell-activating factor promotes epithelial-mesenchymal transition in human pancreatic cancer

Koizumi M, Hiasa Y, Kumagi T, Yamanishi H, Azemoto N, Abe M, Ikeda Y, Matsuura B, Onji M

### **第 49 回日本肝臓学会総会 (2013 年 6 月 6-7 日、東京)**

ワークショップ : IgG 関連疾患の肝病変 : IgG4 関連疾患診断における肝組織検査の有用性  
徳本良雄, 阿部雅則, 多田藤政, 畔元信明, 熊木天児, 日浅陽一, 恩地森一

C 型肝炎に対するインターフェロン治療効果に及ぼす血清パルミチン酸の影響

三宅映己, 廣岡昌史, 徳本良雄, 渡辺崇夫, 古川慎哉, 熊木天児, 阿部雅則, 松浦文三, 日浅陽一, 恩地森一

### **第 110 回日本消化器内視鏡学会四国支部地方会 第 99 回日本消化器病学会四国支部例会 (2013 年 6 月 29-30 日、高知)**

合同シンポジウム : 消化管疾患領域における診療の現状と展望

当院における食道静脈瘤内視鏡治療後再出血例の検討

布井弘明, 池田宜央, 川崎敬太郎, 宇都宮大貴, 八木専, 有光英治, 渡辺崇夫, 山本安則, 森健郎, 壺内栄治, 黒田大良, 小泉光仁, 熊木天児, 阿部雅則, 松浦文三, 日浅陽一

合同シンポジウム : 肝胆膵疾患領域における診療の現状と展望

新規化学療法時代における愛媛県膵癌診療の現状と展望

熊木天児, 黒田太良, 横田智行, 清家裕貴, 西山麻里, 今井祐輔, 稲田 暢, 柴田直純, 今峰 聡, 岡田眞一, 小泉光仁, 山西浩文, 畔元信明, 長谷部昌, 田中良憲, 達

川はるか, 宇都宮大貴, 恩地森一, 日浅陽一

**第 44 回日本膵臓学会大会 (2013 年 7 月 25-26 日、仙台)**

膵癌進展に及ぼす B 細胞活性化因子(BAFF)の作用

小泉光仁, 日浅陽一, 熊木天児, 阿部雅則, 松浦文三, 恩地森一

**64th Annual Meeting of American Association for the Study of the Liver (2013.11.1-5 Washington DC, USA)**

Validation of Alkaline Phosphatase and Bilirubin Values as a Surrogate Endpoint in Primary Biliary Cirrhosis – an International, Collaborative Study

Lammers WJ, Buuren HR, Janssen HL, Invernizzi P, Battezzati PM, Floreani A, Hirschfield GM, Pares A, Ponsioen CY, Corpechot C, Mayo MJ, Talwalkar JA, Burroughs AK, Nevens F, Mason AL, Kowdley KV, Bouwen BL, Kumagi T, Cheung AC, Lleo A, Cazzagon N, Franceschet I, Trivedi PJ, Caballeria L, Boonstra K, Vries EMG, Poupon R, Imam M, Pieri G, Kanwar P, Lindor KD, Hansen BE, Global PBC Study Group

Defining Optimal Laboratory Response Criteria in UDCA Treated Primary Biliary Cirrhosis. Results of an International Multicenter Long-term Follow-up Study

Lammers WJ, Buuren HR, Pares A, Hirschfield GM, Janssen HL, Kumagi T, Invernizzi P, Battezzati PM, Floreani A, Ponsioen CY, Corpechot C, Mayo MJ, Talwalkar JA, Burroughs AK, Nevens F, Mason AL, Kowdley KV, Leeman M, Caballeria L, Trivedi PJ, Cheung AC, Lleo A, Cazzagon N, Franceschet I, Boonstra K, Elisabeth MG, Poupon R, Imam M, Pieri G, Kanwar P, Lindor KD, Hansen BE, Global PBC Study Group

**第 111 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会 第 100 回日本消化器病学会四国支部例会 (2013 年 11 月 23-24 日、高松)**

合同シンポジウム：消化器領域の診断と治療における新展開

当科における肝細胞癌局所療法における工夫—bipolar RFA system を中心に

廣岡昌史, 越智裕紀, 小泉洋平, 渡辺崇夫, 多田藤政, 徳本良雄, 池田適央, 熊木天児, 松浦文三, 阿部雅則, 日浅陽一

**【研究会】**

**第 13 回愛媛プライマリ・ケア研究会 (2013 年 7 月 20 日、松山市)**

地域中核病院の救急外来で経験した 1 型糖尿病の 1 例

加藤丈陽, 川本龍一, 楠木 智, 大塚伸之

愛媛大学地域医療学講座 基礎配属学生の実習内容と取り組み

上本明日香, 小糸秀, 鈴木萌子 (地域医療学講座基礎配属)

## 第2回お稲の会 (2013年9月1日、西予市)

西予市の地域医療への提言ー学生の立場からー

上本明日香, 鈴木萌子, 小糸 秀 (地域医療学講座基礎配属)

## 第11回愛媛大学医学部医科学研究発表会 (2013年9月19-20日、東温市)

西予市野村町地域在住者における死亡に影響する背景因子に関する調査

小糸 秀, 川本龍一, 鈴木萌子, 上本明日香, 阿部雅則, 楠木 智, 小原克彦,  
三木哲郎

## 第11回愛媛大学医学部医科学研究発表会 (2013年9月19-20日、東温市)

医学科1年生と5年生を対象とした地域医療に対する意識調査

上本明日香, 川本龍一, 阿部雅則, 楠木 智

## 第11回愛媛大学医学部医科学研究発表会 (2013年9月19-20日、東温市)

野村町における住民の主観的健康感ー自らが“健康だ”と感じられるにはー

鈴木萌子, 川本龍一, 小糸 秀, 上本明日香, 阿部雅則, 楠木 智, 小原克彦,  
三木哲郎

## 第2回四国門脈圧亢進症研究会 (2013年8月3日、高知)

内視鏡的食道静脈瘤硬化療法後再出血した一例と臨床的特徴の検討

布井弘明, 池田宣央, 川崎敬太郎, 宇都宮大貴, 八木 専, 有光英治, 渡辺崇夫,  
山本安則, 森健一郎, 高山宗三, 壺内栄治, 黒田太良, 小泉光仁, 熊木天児, 阿  
部雅則, 松浦文三, 日浅陽一

### 【講演】

## 広島大学特別講義 (2013年1月18日、広島市)

地域医療とは

川本龍一

## のむらいいき健康大学 (2013年2月18日、西予市)

高血圧の予防・管理

川本龍一

**愛媛大学医学部ウインタースクール（2013年3月5-6日、今治市）**

地域医療学講座の活動

川本龍一

**2012年度中四国地域医療フォーラム（2013年3月10日、岡山市）**

愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センターの役割

川本龍一，阿部雅則，楠木 智

**のむらいきいき健康大学（2013年5月1日、西予市）**

体のしくみと生活習慣病

川本龍一

**平成25年度西予市立野村病院看護師会教育講演（2013年6月19日、西予市）**

看護における EBM と NBM

川本龍一

**平成25年度 高度看護力育成研修 教育講演（2013年6月29日、松山市）**

医師からみたチーム医療－地域医療と連携－

川本龍一

**一般社団法人全国保健師教育機関協議会（2013年8月20日、松山市）**

地域医療を担う医学生の教育の実際－地域医療の課題と保健師への期待－

川本龍一

**第1回中四国家庭医療勉強会ワークショップ（2013年8月23日、西予市）**

野村町の概要と医療状況

川本龍一

**西予市地域医療セミナー（2013年9月1日、西予市）**

西予市における地域医療の現状と将来への取り組み

「これからの地域医療のあり方について」

川本龍一

**西予市野村町生活習慣病予防講演会（2013年10月2日、西予市）**

糖尿病を予防するためには－予備軍から病気に移行しない為に－

川本龍一

### **第3回地域医療再生フォーラム（2013年11月12日、東温市）**

地域医療学講座の活動この一年ー現場での医学教育ー

川本龍一，熊木天児，楠木 智

#### **【座長】**

川本龍一

### **南予呼吸器講演会（2013年4月25日、宇和島市）**

「喘息治療についてガイドライン」

愛媛生協病院家庭医療科部長：城内謙治先生

### **南予自治医の会（2013年5月22日、宇和島市）**

「インクレチン時代の新しいコントロール法への期待」

出市立病院糖尿病内科：大工原裕之先生

### **第1回南予漢方研究会（2013年6月18日、宇和島市）**

「基本処方を幅広く使いこなそうー角藤流・漢方方剤の理解のコツー」

松野町国保診療所所長：角藤 裕先生

### **第13回愛媛プライマリ・ケア研究会（2013年7月20日、松山市）**

「山村診療所での研究経験ーPractice based research の紹介ー」

帝京大学ちば総合医療センター地域医療学：井上和男先生

### **平成24年度愛媛県主催 地域医療夏季サマーセミナー（2013年8月11日、東温市）**

「自治医科大学と愛媛大学地域枠学生の卒業後の協力体制について」

自治医科大学と愛媛大学地域枠学生

### **第5回自治医大糖尿病勉強会 in 愛媛（2013年8月24日、松山市）**

「自治医大卒業20年を過ぎて伝えたいこと」

愛媛県立 中央病院 総合診療部：杉山圭三先生

「動脈硬化性疾患の予防を目指す糖尿病治療」

自治医科大学内科学講座内分泌代謝学部：大須賀淳一先生

### **南予消化器・内分泌・糖尿病疾患研究会（2013年9月24日、宇和島市）**

「進化する肝疾患の診療」

愛媛大学医学部消化器・内分泌学講座教授の日浅陽一先生



**第2回南予漢方研究会（2013年9月24日、宇和島市）**

「診療所での頻用漢方処方－高齢化社会に求められる漢方治療－」

松野町国保診療所所長：角藤 裕先生

**南予自治医の会 学術講演会（2013年10月23日、宇和島市）**

「QOLを考慮した糖尿病治療を考える」

松山市民病院内科：新谷哲司先生

**第3回南予漢方研究会（2013年11月5日、宇和島市）**

「“かぜっぴきの医者”のための漢方」

松野町国保診療所所長：角藤 裕先生

## 講座関連の研究

### 【研究費】

#### 代表

- 財団法人地域社会振興財団：メタボリックシンドローム予防に関する介入研究（2011年4月～現在）
- 総務省ユビキタスタウン事業：明るく、楽しく、老いる街づくり（2010年4月～現在）
- 科学研究費 基盤研究（C）：専門職連携教育による地域医療実習を通じて形成される地域志向性を評価する尺度の開発（2012年4月～現在）
- 科学研究費 基盤研究（C）：自己免疫性膵炎における BAFF、APRIL の臨床的有用性についての検討

#### 協力

- 高齢者高血圧コホート研究（2004年10月～現在）
- Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective Study（2008年6月～現在）
- EWTOPIA 75 試験（2010年4月～現在）

## そ の 他

### 【教育活動】

#### 地域医療学講座西予市地域サテライトセンター（西予市野村病院）での実績

- 初期研修医（地域医療）2013年度6名
- 後期研修医2013年度（地域医療・総合医後期研修コース）2名

#### 地域医療学講座久万高原町地域サテライトセンター（久万高原町立病院）での実績

- 初期研修医（地域医療）2013年度2名
- 後期研修医（家庭医養成愛プログラム）2013年度1名

### 受賞

- 愛媛大学医学部医学科 Best Teacher 賞（熊本）

### 【委員会活動】

#### 学内

- 卒後臨床研修管理委員会（川本）：2010年度から
- 地域医療奨学生ワーキンググループ委員会（川本）：2011年度から
- 地域医療支援センター組織・運営委員会（川本）：2011年度から
- 医学専攻学務委員会（川本）：2011年度から
- 地域医療推進委員会（川本）：2012年度から
- 教務委員会（川本）：2011年度から

#### 学外

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員会（川本）：1999年度から
- 日本老年医学会代議員会（川本）：1999年度から
- 日本内科学会四国支部評議員会（川本）：2009年度から
- 日本老年医学会邦文雑誌編集委員会（川本）：2010年度から
- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員会（川本）：2005年度から
- 愛媛県地域医療再生基金高度看護力開発事業実行委員会（川本）：2012年度から
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会（川本）：2005年度から
- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2007年度から
- 愛媛大学医学部関連病院長会議専門部委員会（川本）：2009年度から
- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011年度から
- 松山赤十字病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011年度から
- 西予市野村町リアイアブル・タウン基盤構築事業（川本）：2010年度から
- 西予市新市立病院建設推進本部会（川本）：2011年度から



## 編集後記

愛媛大学に平成 21 年に地域医療学講座が設置されて以来、講座の活動実績が評価され、25 年には延長が決まり現在 2 期目に入っております。最近、地域医療およびプライマリケアに興味を持つ学生および研修医が増えており、当講座の果たす役割も大きくなっているのが現状であります。しかしながら、教育を中心とした業務を少人数の教官で行うのは困難であります。その点、これまで多くの方々のご協力を得まして発展して参りました。特に、サテライトセンターのあります西予市野村町、久万高原町の関係の皆様には大変お世話になっております。さて、いよいよ来年度からは地域枠入学生 1 期生が初期研修を迎えることになり、大きな船出の第一歩と期待されております。そこで、皆様におかれましては未来の地域医療発展のためにも、学生実習および研修医育成に引き続きご協力および温かいご支援を賜りたい次第です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

末筆とはなりますが、皆様方のご健康と今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

編集担当 熊木天児